

畜産 FAX 情報 第7号

令和7年8月1日
発行:ゆとりみらい21農業推進協議会指導部会

1 高温により飼料用とうもろこしの生育が早いため、 二番草の収穫はお早めに！

本年は、飼料用とうもろこしのは種期が7日遅れたにもかかわらず、高温により雄穂抽出期と絹糸抽出期は平年よりも6日早く迎えました(R5・6年と同程度)。子実の登熟は今後の気象次第でさらに早まる可能性があります。

二番草牧草の収穫作業は余裕をもって行い、飼料用とうもろこしの収穫作業に備えましょう。

2 飼料用とうもろこしのすす紋病対策

数日間の連続した降雨によって高温多湿条件が続くと、すす紋病が増加します。連作ほ場の外周を中心に確認を行い、8月上旬までに初発が確認できた場合には殺菌剤の使用をおすすめします。

表1 すす紋病対策の殺菌剤の使用法（通常散布）

殺菌剤名	希釈倍率	10a 当たり薬量 (水 100L)	使用時期
チルト乳剤 25	1,000 倍	100ml	収穫 7 日前まで

表2 すす紋病対策の殺菌剤の使用法（無人航空機による散布）

殺菌剤名	希釈倍率	10a 当たり薬量	使用時期
チルト乳剤 25	8 倍	0.8 L	収穫 7 日前まで
	16 倍	1.6 L	

※本剤は野菜類、マメ類等の畑作物に飛散すると生育抑制や縮葉などの薬害を生じるおそれがあるため、十分注意しましょう。

3 暑熱対策

かつて無いほど気温が高く推移し、暑熱ストレスから牛の免疫力が低下しています。今後も猛暑日がつづく可能性があるので飼養管理を再確認しましょう。

(1) エサの管理

- ① 二次発酵防止のためサイレージの取り出し面を最小にする(酸素との接触を最小限にする)。シートをかけて取り出し面に直射日光が当たらないようにし、ムレを防止するためシートを地面まで下げず隙間を空ける
- ② 飼槽の残飼は毎日掃除する
- ③ エサの掃き寄せ頻度を増やす

(2) 栄養管理

- ① 塩やミネラルを通常より1～2割増給するとともに、ビタミン(A、E など)を給与する
- ② ルーメンアシドーシスを予防するため、重曹を 100～200g/頭/日給与または桶などに入れて自由採食させる
- ③ 水槽、ウォーターカップの清掃頻度を増やす

(3) 冷却システムの活用

- ① 日中から夜間にかけて外気温が下がる時、牛舎内の温度をすばやく下げるには換気が重要。入気口と排気口を確保しましょう。
- ② 牛がしっかり回復できるように夜間も送風ファンを稼働させる
- ③ ミストは牛体表面を濡らさないように、湿度によって散水間隔を調整する(湿度が高い日は散水間隔を短くする)

<人も熱中症に注意！>

- ・ 日中はこまめな休憩を取り、のどが渇く前のこまめな水分補給・塩分補給！
- ・ ほ場などで具合が悪くなった際に、すぐに家族と連絡が取れるよう、
携帯電話・スマートフォンの常備を！
- ・ 夜はしっかりと睡眠を取りましょう！